平成２９年　11月　　30日

平成２９年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立　昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成２９年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成29年4月18日(火)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語Ａ・Ｂ，算数Ａ・Ｂ，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語Ａ・Ｂ，数学Ａ・Ｂ，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語Ａ	４８人	国語Ｂ	４８人
②　算数Ａ	４８人	算数Ｂ	４８人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており，実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

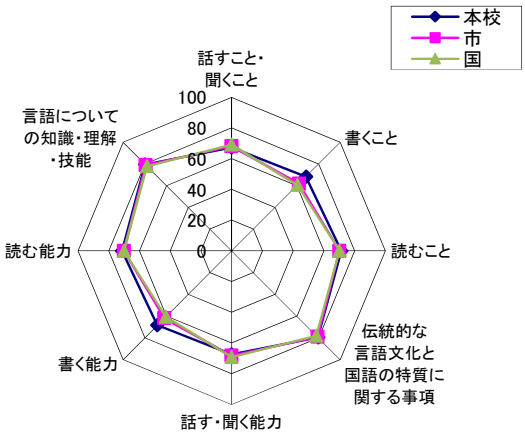
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

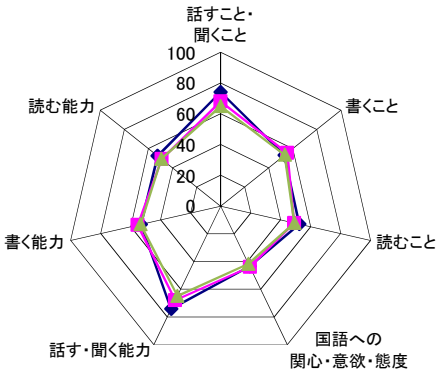
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	67.3	68.2	69.2
	書くこと	68.4	62.0	60.6
	読むこと	71.4	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.6	79.1	78.0
観点	国語への関心･意欲･態度			
	話す･聞く能力	67.3	68.2	69.2
	書く能力	68.4	62.0	60.6
	読む能力	71.4	70.2	70.2
	言語についての知識･理解･技能	79.6	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	74.1	68.0	64.9
	書くこと	53.1	55.3	53.4
	読むこと	52.4	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心･意欲･態度	43.5	43.9	41.7
	話す･聞く能力	74.1	68.0	64.9
	書く能力	53.1	55.3	53.4
	読む能力	52.4	49.0	49.2
	言語についての知識･理解･技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

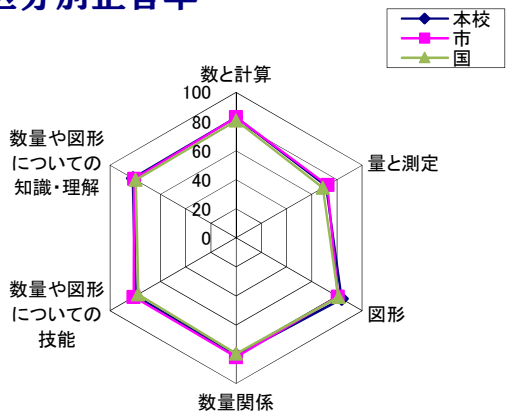
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●国語Aでは，市や全国の平均をわずかに下回っている。 ○国語Bでは，市の平均を6ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じ適切な言葉遣いで話す問題や，スピーチメモのよさを捉える問題の正答率が高かった。	・話し合いのモデルを提示し，互いの考えの共通点や相違点を確認しながら話し合いを進めている様子を具体的に示すようにする。 ・特別活動や他教科とも関連付け，話し合いの場を設定する。 ・スピーチの目的や意図，指導のねらいなどに応じて，話の構成や内容，話し方についてなど振り返るための観点を明確にする。
書くこと	○国語Aでは，市の平均を6ポイント上回っている。 ○手紙の構成を理解し後付けを書く問題の正答率が，市や全国の平均を10ポイント以上上回っている。 ●国語Bでは，市の平均をわずかに下回っている。 ●目的や意図に応じて文章全体の構成を考える問題の正答率が低かった。 ○目的や意図に応じ必要な内容を整理して書く問題の正答率が高かった。	・読み手の立場に立って文章を書く際には，構成の段階で友達と読み合い，話し合ったり助言し合ったりして文章を見直す活動を取り入れる。 ・普段から，児童の日常生活の中から書く必要のあることを取り上げて題材を選び，書くことによってどのようなよさが期待できるかなど，見通しをもたせるようにする。
読むこと	○国語A，Bともに市や全国の平均を上回っている。 ●国語Aでは，俳句の情景を捉える問題の正答率が低かった。 ○国語Bでは，自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える問題の正答率が高かった。	・俳句を繰り返し音読したり，それぞれの俳句のよさについて話し合ったりする活動を取り入れる。 ・物語を読む際には，複数の場面の叙述を相互に関係付けながら読むことができるよう物語全体を見通すことができるような学習シートを用いたり，感想を書いたカードやノートを活用したりしながら，どの叙述に着目したのかを明確にすることができるよう指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○国語Aでは，市や全国の平均とほぼ同じである。 ○ことわざの意味を理解して自分の表現に用いる問題や，古文における言葉やリズムを楽しみながら読む問題で，市や全国の正答率を大きく上回っていた。 ●漢字を書く問題で正答率の低いものがあった。	・学習した漢字を繰り返し練習するだけでなく，漢字のもつ意味を考えながら，文や文章の中で正しく使うことができるようにしていく。

宇都宮市立　昭和小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

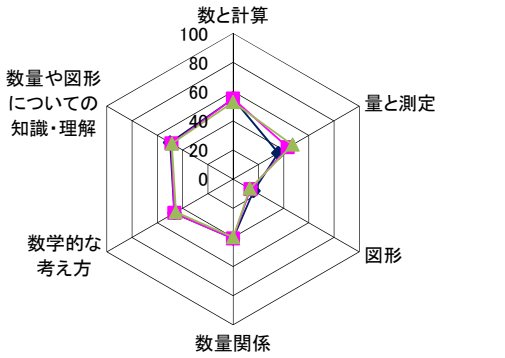
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	82.9	82.9	80.6
	量と測定	71.4	72.5	68.8
	図形	83.7	80.8	81.1
	数量関係	80.4	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	79.8	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	81.9	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	55.1	55.1	52.8
	量と測定	35.7	43.4	47.0
	図形	16.3	13.8	13.2
	数量関係	40.8	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	46.5	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	50.0	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○算数A，Bともに市や全国の平均とほぼ同じである。 ○乗数を整数に置き換えて考える問題と，最小公倍数を求める問題の正答率は，市や全国の平均を大きく上回っている。 ●算数Bの，示された考えを図に表す問題で，正答率が低かった。 ○直線の数とその間の数の関係に着目して示された方法を問題場面に適用する問題で，正答率が高かった。	・自ら見出した数量の関係が成り立つ理由を図を用いて考察する活動を多く取り入れる。さらに，数量の関係を言葉や式を用いて一般化して表現することが，自分の考えを相手にわかりやすく伝え合ったりする上で有用であると，児童が実感できるような授業を展開するようにする。
量と測定	○算数Aでは，市や全国の平均を上回っている。 ○示された平行四辺形の面積の半分の面積である三角形を正しく選ぶ問題の正答率が高かった。 ●算数Bでは，市や全国の平均を下回っている。 ●仮の平均の考えを活用して測定値の平均求める問題の正答率が低かった。	・日常生活や他教科での学習場面で平均を求める際，平均を求める意味を場面や状況と関連付けて考察し，適切に平均を求めることができるようにしていく。 ・平均を求める際には，グラフ，式，言葉などを関連付けて式の中の数の意味を解釈し，説明する活動を取り入れる。
図形	○算数A，Bともに市や全国の平均を上回っている。 ○算数Aでは，正五角形をかくとき，円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く問題の正答率が高かった。 ●立方体の面と面の位置関係を答える問題で，正答率が市の平均を下回っていた。	・立体図形では，面と面の垂直や平行といった位置関係について想像した上で，具体物を用いて確認する活動を取り入れる。 ・図形を構成したり分解したりして操作する活動を多く取り入れて学習を進めることで実感的に理解できるようにさせ，さらに図形の性質や感覚を豊かにする指導を工夫していく。
数量関係	○算数A，Bともに全国の平均とほぼ同じである。 ○未知の数量を表す□を用いて問題場面を除法の式に表す問題の正答率が高かった。 ●資料から二次元表の合計欄に入る数を求める問題の正答率が低かった。 ○算数Bでは，式の中の数の意味を表と関連付けながら正しく解釈し記述する問題や，割合を比較するグラフを選ぶ問題，割合を解釈して基準値と比較量の関係を表している図を選ぶ問題で，正答率が高かった。	・資料を分類整理する際には，二次元表の合計欄の数値と調査した人数を比較する場を設け，確認していくよう指導する。 ・授業の中だけではなく，朝の学習や家庭学習を活用し，継続して既習事項の復習をする。

宇都宮市立　昭和小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか」「起きていますか」の肯定的回答が，全国・県の平均を上回っている。また，「テレビを見る時間やゲームをする時間などののルールを家の人と決めていますか」の肯定的回答も全国・県の平均を上回っている。さらに，「普段のテレビやビデオ・DVDを見たり聞いたり」の時間が全国・県の平均と比べても少なめの時間を回答している。これらのことから，家庭での児童への規則正しい生活への意識付けが十分行わていることがうかがえる。家庭への呼びかけを継続したい。
○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」，「学級会などの話し合いの活動で，自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり，折り合いをつけて話し合い，意見をまとめていますか」，「学級やグループの中で自分たちで課題を立てて，その解決に向けて情報を集め，話し合いながら整理して，発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか」「『総合的な学習の時間』では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」への肯定的回答が，全国・県の平均を上回っており，グループでの話し合い，発表等の学習活動や，個人での発表することへの自信や意欲が十分に身についていることがわかる。また，総合的な学習の時間等の学習活動がそれを支えているであろうことが見て取れる。
●反面，「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」「学校の授業などで，自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることは難しいと思いますか」の肯定的回答は全国・県を下回っており，児童が「書く」ことへの苦手意識を強く持っていることがうかがえる。「書く」ことへの抵抗感を減らすために日常的に書くことへの楽しさを感じられる指導の工夫に努めたい。
○「学校の授業時間以外に，普段，１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか」では，全国・県の平均時間よりも長い時間を回答している。また，「学習塾（家庭教師含む）で勉強をしていますか」「家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか」「学校で，好きな授業がありますか」「受けた授業の中で目標が示されていたと思いますか」の肯定的回答が全国・県の平均を上回っていることから，学習への前向きな気持ちと，学習態度の良さが十分に伺える。
○「学校で，友達に会うのは楽しいと思いますか」「学級みんなで何かをやり遂げ，うれしかったことがありますか」「人が困っているときは，進んで助けていますか」「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の肯定的回答が全国・県の平均を上回っていることから，他人を思いやる気持ちや，いじめは許さないという正しい判断力が育っていると思われる。
○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の肯定的回答が全国・県の平均を大きく上回っている。地域や保護者の方々の学校への熱心な協力や温かい理解による数値であると考える。感謝の気持ちをもって地域を担う一員としての自覚を今後も高められるようにしたい。
○「家の人と将来のことについて話すことがありますか」の肯定的回答が全国・県の平均を上回っている。家庭でも将来への展望等についてしっかりと考えていてくれていることがよくわかる。総合的な学習でのインターンシップの意欲につなげていきたい。

宇都宮市立　昭和小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の定着	学力アップ月間を設け，家庭学習の記録をつけることで自分の家庭学習の内容や時間を見直したり，学年便りや学校便りで家庭にも啓発したりし，学校と家庭と連携して，家庭学習のさらなる定着を図った。	家庭学習力が4，5年共に市の平均よりも上回っており，家庭学習の定着が見られた。特に，「家で学校の宿題をしている」では，肯定群回答割合が96%以上とほとんどの児童が肯定的に回答していた。また，「家で自分で計画を立てて勉強している」でも，肯定解答率が74%以上と計画的に家庭学習をする習慣も身に付いてきている。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えを表現する力の向上 書く力の向上	目的に合った表現方法や表現内容を身に付けさせる活動 書く力を高めさせる工夫	テーマを設けた作文や日記指導を行ったり，語彙を増やすための活動を取り入れたりする。また，書く力を伸ばすための取り組みを各担任が工夫し，情報交換してより良い取り組みを研究していく。